

令和 4 年度病床機能報告の定量基準分析結果について

定量基準分析（埼玉方式）のあゆみ

平成29年度

- 7月 委託業者の公募・業者決定（みずほ情報総研）
- 8月～10月 データ分析方針の検討
- 11月・2月 「埼玉県地域医療構想推進会議」での分析方針説明・中間報告・意見聴取

平成30年度

- 4月 「埼玉県地域医療構想推進会議」での分析結果報告・意見聴取
- 5月 厚労省主催「地域医療構想に関するワーキンググループ」で事例発表
- 6月 厚労省主催「都道府県医療政策研修」で事例発表
- 8月 「地域医療構想調整会議の活性化のための地域の実情に応じた定量的な基準の導入について」通知 ※厚労省が各都道府県に埼玉方式の分析ツールを提供

令和元年度

- 2～3月 平成30年度診療報酬改定を踏まえた分析業務の委託（みずほ情報総研）

令和2年度

- 2～3月 分析業務の委託（みずほ情報総研）

令和4年度

- 1～3月 分析業務の委託（みずほリサーチ&テクノロジーズ）

令和5年度

- 1～3月 分析業務の委託（健康保険医療情報総合研究所）

※令和3年度は病床機能報告様式2の報告が実施されず、分析の元データが得られなかったため実施していない。

埼玉県病床機能報告定量基準分析の枠組み

- 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすのかが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟（周産期・小児以外）**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線1・区分線2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

4 機能	大区分					
	主に成人		周産期	小児		緩和ケア
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	一般病棟 有床診療所の一般病床 地域包括ケア病棟	MFICU NICU GCU	PICU	小児入院医療管理料1	
急性期			産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の急性期一般入院料1 小児科の一般病棟7:1		緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の急性期一般入院料1、 一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所		
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等					緩和ケア病棟 (放射線治療なし)

切り分け

具体的な機能に応じて区分線を引く

機能区分基準の考え方

- ① 病床機能報告のうち、主に「具体的な医療の内容に関する項目」のデータの中から、外科的治療・内科的治療・全身管理等の幅広い診療内容を加味して基準を構成。
- ② 区分線 1 のしきい値は、救命救急入院料やICUの大半が、高度急性期に区分される程度とする。
- ③ 区分線 2 のしきい値は、急性期一般入院料 1 の大半が、高度急性期・急性期に区分される程度とする。
- ④ 区分線 1・2 を設定した結果、高度急性期・急性期・回復期の 1 日あたり入院患者数が、「埼玉県地域医療構想における現在（2013年）の需要推計」との間に大きな齟齬がないか確認する。

ただし、実際には各病棟にはさまざまな病期の患者が混在する中で、病棟単位での集計結果に応じて区分するため、ある病棟が、わずかな機能の差によって、「急性期の病棟」に区分されたり「回復期の病棟」に区分されたりし、それに応じて「急性期の病棟の病床数」も大きく変わる。

区分線には「絶対の閾値」があるわけではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。

高度急性期・急性期の区分（区分線1）の指標

○救命救急やICU等で特に多く提供されている医療

- A：【手術】全身麻酔下手術
- B：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- C：【がん】悪性腫瘍手術
- D：【脳卒中】超急性期脳卒中加算
- E：【脳卒中】脳血管内手術
- F：【心血管疾患】経皮的冠動脈形成術（※）
- G：【救急】救急搬送診療料
- H：【救急】救急医療に係る諸項目（☆）
- I：【救急】重症患者への対応に係る諸項目（☆）
- J：【全身管理】全身管理への対応に係る諸項目（☆）

※...診療報酬上の入院料ではなくデータから特定がしにくいCCUへの置き換えができなかったこと、
経皮的冠動脈形成術の算定が一般病棟7:1よりもICU等に集中していることによる。

☆...機能報告のデータ項目のうち、救命救急やICU等で算定が集中しているものに限定。

→ これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

区分線1で高度急性期に分類される病棟の割合（令和4年度報告）

区分線1で高度急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合				
			最大使用病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	救命・ICU・SCU・HCU	急性期一般病棟1, 一般病棟7:1 (※)	左記以外の病院一般病棟 (※)	有床診の一般病床 (※)	地域包括ケア病棟
手術	A	全身麻酔下手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	37.1%	2.6%	0.9%	2.5%	0.0%
	B	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	20.0%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%
がん	C	悪性腫瘍手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	20.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%
脳卒中	D	超急性期脳卒中加算	あり	あり	23.8%	0.8%	0.3%	0.0%	算定不可
	E	脳血管内手術	あり	あり	26.7%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%
心血管疾患	F	経皮的冠動脈形成術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	21.0%	2.6%	0.9%	0.8%	0.0%
救急	G	救急搬送診療料	あり	あり	13.3%	2.0%	0.6%	0.0%	算定不可
	H	救急医療に係る諸項目（下記の合計） ・救命のための気管内挿管 ・体表表面・食道ペーシング法 ・非開胸的心マッサージ ・カウンターショック ・心膜穿刺 ・食道圧迫止血チューブ挿入法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	61.0%	1.5%	0.3%	1.7%	0.0%
	I	重症患者への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的肺動脈圧測定 ・持続緩徐式血液濾過 ・大動脈バルーンポンピング法 ・経皮的心肺補助法 ・人工心臓 ・頭蓋内圧持続測定(3時間超) ・人工心肺 ・血漿交換療法 ・吸着式血液浄化法 ・血球成分除去療法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	44.8%	3.3%	0.9%	0.0%	0.0%
全身管理	J	全身管理への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的動脈圧測定(1時間超) ・ドレーン法 ・胸腔穿刺 ・人工呼吸(5時間超)	8.0回/月・床以上	320回/月以上	50.5%	2.8%	1.2%	0.0%	0.0%
上記A～Jのうち1つ以上を満たす					77.1%	19.4%	4.3%	5.0%	0.0%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

急性期・回復期の区分（区分線2）の指標

○急性期一般入院料1（従前の一般病棟7:1）にて多く提供されている医療

- K：【手術】手術
- L：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- M：【がん】放射線治療
- N：【がん】化学療法
- O：【救急】救急搬送による予定外の入院

○一般病棟や地域包括ケア病棟で共通して用いられている指標

■ P：【重症度、医療・看護必要度】

基準（「A得点2点以上かつB得点3点以上」「B14又はB15に該当する患者であって、A得点が1点以上かつB得点が3点以上」「A得点3点以上」「C得点1点以上」）を満たす患者割合

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

区分線2で急性期に分類される病棟の割合（令和4年度報告）

区分線2で急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合				
			最大使用病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	急性期一般病棟1,一般病棟7:1 (※)	急性期一般病棟2-7,一般病棟10:1 (※)	その他一般病棟 (※)	有床診の一般病床 (※)	地域包括ケア病棟
手術	K	手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	11.2%	4.1%	1.9%	20.2%	0.0%
	L	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.1回/月・床以上	4回/月以上	21.4%	9.0%	0.0%	3.4%	1.4%
がん	M	放射線治療（レプト枚数）	0.1枚/月・床以上	4枚/月以上	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	N	化学療法（日数）	1.0日/月・床以上	40日/月以上	15.6%	2.5%	1.0%	0.8%	0.0%
救急	O	予定外の救急医療入院の人数	10人/年・床以上	33.3人/月以上	19.1%	13.9%	0.5%	0.0%	2.9%
重症度等	P	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患者割合	I:31%以上 II:29%以上		77.8%	40.2%	1.0%	0.0%	4.3%
			上記K～Pのうち1つ以上を満たす		86.0%	50.0%	4.3%	23.5%	8.7%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【埼玉県全体】

4機能区分別の病床稼働率について、「(国の基準による)地域医療構想における想定%」と「今回の区分結果の%」との比較表示をしている。

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考	
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	104病棟	715人/日	1,112床	59.9%	3.8日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分	
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	94病棟	3,102人/日	3,784床	80.9%	10.3日		
		急性期	349病棟	11,455人/日	14,831床	74.6%	11.7日		
		回復期	200病棟	5,513人/日	8,366床	69.7%	19.2日		
	回復期リハビリ病棟	回復期	85病棟	3,329人/日	3,985床	86.6%	65.8日		
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	64病棟	2,479人/日	2,963床	81.2%	108.0日		
	医療療養病床	慢性期	170病棟	7,181人/日	7,905床	88.4%	207.1日		
介護療養病床	慢性期	4病棟	115人/日	171床	35.2%	173.7日			
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	29病棟	292人/日	457床	68.7%	14.9日		
	産科の一般病床	急性期	79病棟	1,372人/日	2,033床	73.9%	6.0日		
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	15病棟	252人/日	398床	63.2%	6.1日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分	
		急性期	15病棟	201人/日	465床	46.3%	5.7日		
		回復期	1病棟	0人/日	2床	-	-		
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	3病棟	41人/日	68床	61.0%	18.2日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする	
		慢性期	16病棟	245人/日	373床	64.8%	24.1日		
その他	不明	不明/休棟	107病棟	2,181人/日	2,728床	43.3%	16.7日		
	休棟・休床中	不明/休棟	39病棟	8人/日	861床	0.0%	-		

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	4,361人/日	75.0%	74.6%
急性期	13,070人/日	78.0%	73.7%
回復期	8,843人/日	90.0%	75.3%
慢性期	10,020人/日	92.0%	84.7%
不明	2,190人/日	-	31.7%
合計	38,484人/日	-	73.4%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	86.6%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	69.8%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟	64.6%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	80.9%
うち産科・小児科を除く有床診療所	48.4%
うち小児科の一般病棟・有床診療所	-

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	242病棟	4,361人/日	5,751床	6,373床	5,528床	74.6%	8.0日
急性期 計	446病棟	13,070人/日	17,397床	24,887床	17,954床	73.7%	10.4日
回復期 計	286病棟	8,843人/日	12,353床	6,216床	16,717床	75.3%	26.2日
慢性期 計	254病棟	10,020人/日	11,412床	12,165床	14,011床	84.7%	144.2日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	146病棟	2,190人/日	3,589床	861床☆	-	31.7%	16.7日
全体	1,374病棟	38,484人/日	50,502床	50,502床	54,210床	73.4%	15.9日

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	158床
急性期	1,386床
回復期	399床
慢性期	785床
休棟中・無回答	861床
	3,589床

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定できないもの。
 ☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの
 *「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。

4機能区分別の病床数について、「今回の区分結果」「病床機能報告」「地域医療構想の必要病床数」の3つを比較表示。

回復期については、入院料や診療科の種類によって、より細分化する形で、病床稼働率を表示。

(参考) 令和3年度病床機能報告 定量基準分析結果【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	101病棟	710人/日	1,236床	55.2%	4.4日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	72病棟	2,062人/日	2,646床	78.4%	9.6日	
		急性期	320病棟	10,431人/日	13,581床	76.3%	12.0日	
		回復期	223病棟	5,889人/日	8,678床	69.0%	19.9日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	83病棟	3,451人/日	3,953床	87.5%	67.6日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	64病棟	2,553人/日	3,005床	83.8%	104.2日	
	医療療養病床	慢性期	170病棟	7,211人/日	7,788床	89.6%	229.8日	
介護療養病床	慢性期	6病棟	243人/日	292床	83.4%	224.6日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	29病棟	290人/日	457床	67.9%	15.4日	
	産科の一般病床	急性期	78病棟	1,245人/日	1,948床	71.3%	6.0日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	14病棟	259人/日	398床	65.2%	6.5日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病棟	229人/日	492床	46.4%	6.3日	
		回復期	2病棟	19人/日	34床	59.9%	5.8日	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	3病棟	53人/日	71床	74.5%	19.0日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	16病棟	229人/日	369床	58.3%	22.7日	
その他	不明	不明/休棟	119病棟	2,579人/日	3,987床	64.3%	15.7日	
	休棟・休床中	不明/休棟	47病棟	156人/日	980床	5.5%	10.2日	

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	216病棟	3,322人/日	4,737床	6,219床	5,528床	70.4%	7.7日
急性期 計	417病棟	11,958人/日	16,092床	24,406床	17,954床	74.7%	10.7日
回復期 計	308病棟	9,359人/日	12,665床	6,092床	16,717床	75.1%	27.2日
慢性期 計	256病棟	10,237人/日	11,454床	12,218床	14,011床	86.8%	150.4日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	166病棟	2,735人/日	4,967床	980床☆		52.9%	15.6日
全体	1,363病棟	37,610人/日	49,915床	49,915床	54,210床	74.6%	16.7日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	3,322人/日	75.0%	70.4%
急性期	11,958人/日	78.0%	74.7%
回復期	9,359人/日	90.0%	75.1%
慢性期	10,237人/日	92.0%	86.8%
不明	2,735人/日	—	52.9%
合計	37,610人/日	—	74.6%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟		87.5%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1		77.1%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟		65.1%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等		77.5%
うち産科・小児科を除く有床診療所		49.8%
うち小児科の一般病棟・有床診療所		59.9%

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	304床
急性期	2,797床
回復期	248床
慢性期	638床
休棟中・無回答	980床
	4,967床

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【南部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率	平均在棟日数	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	10病床	61人/日	126床	48.8%	3.2日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	8病床	251人/日	331床	72.9%	10.6日	
		急性期	30病床	1,104人/日	1,421床	76.2%	11.0日	
		回復期	24病床	594人/日	956床	67.4%	18.6日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	8病床	346人/日	373床	94.0%	63.4日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	2病床	62人/日	75床	82.7%	62.7日	
	医療療養病床	慢性期	13病床	447人/日	546床	81.8%	151.7日	
介護療養病床	慢性期	1病床	16人/日	60床	27.1%	112.2日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	4病床	27人/日	42床	64.9%	16.6日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	産科の一般病床	急性期	8病床	182人/日	241床	75.3%	6.3日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	1病床	16人/日	28床	56.8%	4.8日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		急性期	2病床	24人/日	50床	48.1%	5.4日	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	1病床	13人/日	18床	71.7%	26.5日	
		慢性期	1病床	15人/日	24床	-	-	
その他	不明	不明/休棟	4病床	69人/日	97床	73.7%	6.0日	
	休棟・休床中	不明/休棟	3病床	0人/日	29床	0.0%	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	356人/日	75.0%	65.2%
急性期	1,323人/日	78.0%	75.2%
回復期	940人/日	90.0%	74.5%
慢性期	540人/日	92.0%	74.2%
不明	69人/日	—	45.2%
合計	3,228人/日	—	73.0%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	94.0%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	61.5%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟	62.4%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	90.6%
うち産科・小児科を除く有床診療所	83.7%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

4機能ごとに集計

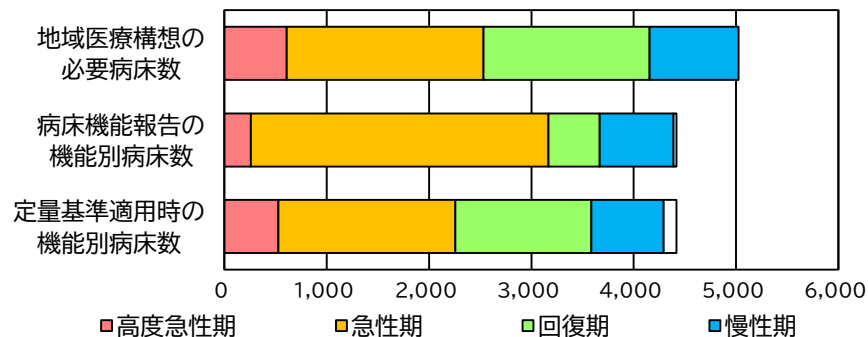
4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	23病床	356人/日	527床	257床	609床	65.2%	7.2日
急性期 計	41病床	1,323人/日	1,730床	2,910床	1,922床	75.2%	9.8日
回復期 計	32病床	940人/日	1,329床	500床	1,623床	74.5%	24.4日
慢性期 計	17病床	540人/日	705床	721床	871床	74.2%	116.7日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	7病床	69人/日	126床	29床☆	-	45.2%	6.0日
全体	120病床	3,228人/日	4,417床	4,417床	5,025床	73.0%	12.8日

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	46床
回復期	0床
慢性期	51床
休床中・無回答	29床
合計	126床

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定できないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 定量基準を適用した現在の病床数は、地域医療構想の必要病床数に対して、高度急性期を除き地域医療構想の必要病床数を1～2割程度下回っている。一層の病床確保が課題と考えられる。
- ・ 2050年には65歳以上の人口が約22万人と大幅に増加することが推計されている点からも回復期、慢性期の病床の確保は重要であると考えられる。

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【南西部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	16病棟	68人/日	115床	60.3%	3.0日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	6病棟	200人/日	237床	84.5%	10.2日	
		急性期	32病棟	1,055人/日	1,367床	77.2%	11.6日	
		回復期	23病棟	783人/日	993床	77.2%	17.4日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	9病棟	314人/日	346床	85.4%	70.5日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	10病棟	382人/日	433床	86.3%	175.7日	
	医療療養病床	慢性期	15病棟	607人/日	650床	95.0%	253.7日	
介護療養病床	慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	3病棟	16人/日	30床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	産科の一般病床	急性期	8病棟	162人/日	170床	98.1%	5.7日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		急性期	2病棟	35人/日	85床	41.3%	4.3日	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		慢性期	3病棟	85人/日	99床	86.4%	31.4日	
その他	不明	不明/休棟	8病棟	77人/日	166床	47.9%	8.2日	
	休棟・休床中	不明/休棟	0病棟	0人/日	0床	-	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	284人/日	75.0%	77.8%
急性期	1,251人/日	78.0%	77.5%
回復期	1,097人/日	90.0%	79.2%
慢性期	1,074人/日	92.0%	90.8%
不明	77人/日	—	47.9%
合計	3,783人/日	—	79.9%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	85.4%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	81.2%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟	75.2%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	80.4%
うち産科・小児科を除く有床診療所	42.1%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

4機能ごとに集計

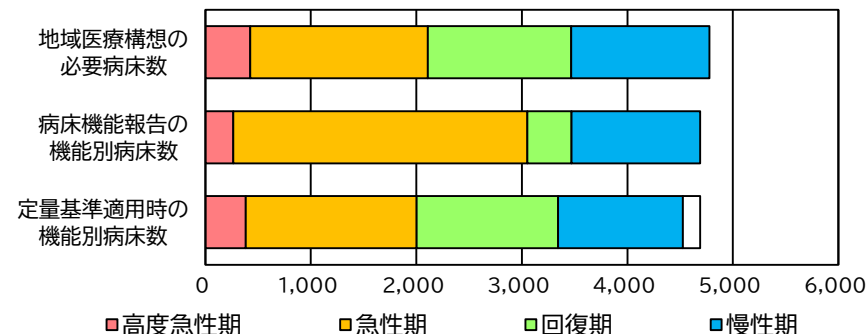
4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	25病棟	284人/日	382床	264床	425床	77.8%	6.7日
急性期 計	42病棟	1,251人/日	1,622床	2,788床	1,685床	77.5%	9.6日
回復期 計	32病棟	1,097人/日	1,339床	420床	1,356床	79.2%	21.7日
慢性期 計	28病棟	1,074人/日	1,182床	1,219床	1,311床	90.8%	146.1日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	8病棟	77人/日	166床	0床☆	-	47.9%	8.2日
全体	135病棟	3,783人/日	4,691床	4,691床	4,777床	79.9%	15.3日

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	136床
回復期	0床
慢性期	30床
休床中・無回答	0床
合計	166床

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定できないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 定量基準を適用した現在の病床数は、地域医療構想の必要病床数に対して、回復期・慢性期はおおむね地域医療構想における想定水準である。高度急性期・急性期は高度急性期が過剰であるが、両病床を合わせると想定水準となる。
- ・ 2050年には65歳以上の人口が約22.2万人と大幅な増加が推計されている点から回復期・慢性期の病床の確保は重要であると考えられる。

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【東部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	10病床	61人/日	115床	38.8%	5.0日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	14病床	392人/日	559床	71.6%	9.9日	
		急性期	60病床	1,929人/日	2,616床	72.0%	11.5日	
		回復期	25病床	671人/日	1,051床	67.0%	18.6日	
	回復期リハビリ病床	回復期	16病床	576人/日	808床	90.4%	66.4日	
	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	16病床	624人/日	729床	81.5%	101.5日	
	医療療養病床	慢性期	19病床	761人/日	881床	87.2%	280.9日	
介護療養病床	慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	6病床	25人/日	58床	61.6%	9.0日	
	産科の一般病床	急性期	12病床	180人/日	262床	79.5%	4.9日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病床等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	3病床	53人/日	117床	45.1%	6.6日	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		慢性期	5病床	51人/日	109床	46.9%	21.3日	
その他	不明	不明/休棟	16病床	83人/日	247床	44.4%	14.0日	
	休棟・休床中	不明/休棟	5病床	0人/日	135床	0.0%	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	478人/日	75.0%	68.2%
急性期	2,162人/日	78.0%	71.5%
回復期	1,247人/日	90.0%	75.3%
慢性期	1,436人/日	92.0%	81.6%
不明	83人/日	—	24.7%
合計	5,405人/日	—	71.8%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病床	90.4%
うち産科・小児科を除く急性期一般病床1・一般病床7:1	75.1%
うち産科・小児科を除くその他の一般病床	55.8%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病床等	77.1%
うち産科・小児科を除く有床診療所	62.5%
うち小児科の一般病床・有床診	-

4機能ごとに集計

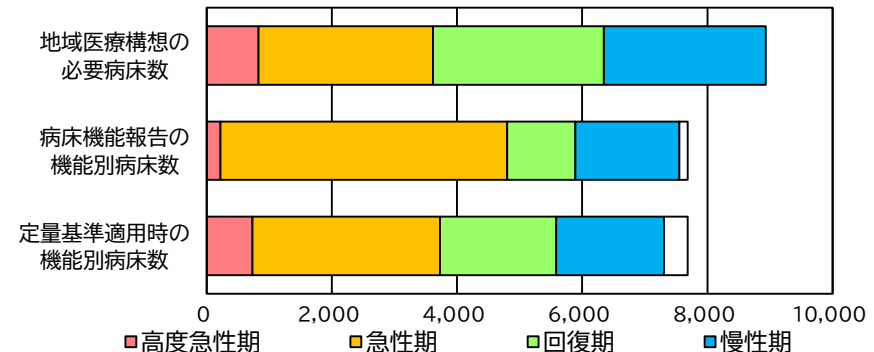
4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	30病床	478人/日	732床	218床	831床	68.2%	9.4日
急性期 計	75病床	2,162人/日	2,995床	4,584床	2,783床	71.5%	10.1日
回復期 計	41病床	1,247人/日	1,859床	1,089床	2,734床	75.3%	26.8日
慢性期 計	40病床	1,436人/日	1,719床	1,661床	2,587床	81.6%	123.8日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	21病床	83人/日	382床	135床☆	-	24.7%	14.0日
全体	207病床	5,405人/日	7,687床	7,687床	8,935床	71.8%	15.8日

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病床等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	123床
回復期	116床
慢性期	8床
休床中・無回答	135床
	382床

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定できないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病床を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- 定量基準を適用した現在の病床数は、地域医療構想の必要病床数に対して回復期・慢性期の病床が800床以上不足している。
- 2050年には65歳以上の人口が約34万人と増加する点、病床稼働率が想定病床稼働率を下回る点から、回復期・慢性期病床の確保、在宅医療の推進等により患者需要に対応しうる稼働率向上に向けた対応が必要と考えられる。

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【さいたま圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	22病床	135人/日	202床	63.9%	3.4日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	14病床	491人/日	575床	89.0%	9.7日	
		急性期	65病床	2,054人/日	2,623床	80.0%	11.6日	
		回復期	16病床	462人/日	626床	75.9%	19.0日	
	回復期リハビリ病床	回復期	10病床	433人/日	487床	88.9%	61.6日	
	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	7病床	245人/日	300床	84.1%	513.8日	
	医療療養病床	慢性期	18病床	778人/日	862床	90.4%	179.9日	
介護療養病床	慢性期	1病床	36人/日	40床	89.3%	221.0日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	8病床	117人/日	144床	86.8%	15.4日	
	産科の一般病床	急性期	12病床	171人/日	255床	73.2%	6.8日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病床等	高度急性期	11病床	180人/日	276床	65.3%	6.2日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	4病床	48人/日	100床	48.0%	5.4日	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		慢性期	1病床	8人/日	22床	36.3%	10.3日	
その他	不明	不明/休棟	13病床	176人/日	348床	42.2%	26.2日	
	休棟・休床中	不明/休棟	4病床	0人/日	89床	0.0%	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	923人/日	75.0%	78.3%
急性期	2,272人/日	78.0%	78.3%
回復期	895人/日	90.0%	81.7%
慢性期	1,067人/日	92.0%	88.2%
不明	176人/日	—	33.2%
合計	5,334人/日	—	77.6%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病床	88.9%
うち産科・小児科を除く急性期一般病床1・一般病床7:1	64.7%
うち産科・小児科を除くその他の一般病床	73.6%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病床等	80.0%
うち産科・小児科を除く有床診療所	-
うち小児科の一般病床・有床診	-

4機能ごとに集計

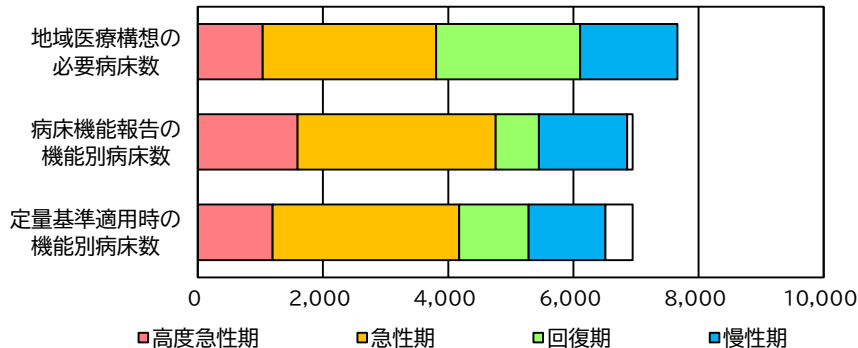
4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	55病床	923人/日	1,197床	1,593床	1,039床	78.3%	7.3日
急性期 計	81病床	2,272人/日	2,978床	3,165床	2,770床	78.3%	10.8日
回復期 計	26病床	895人/日	1,113床	689床	2,301床	81.7%	28.5日
慢性期 計	27病床	1,067人/日	1,224床	1,413床	1,554床	88.2%	172.1日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	17病床	176人/日	437床	89床☆	-	33.2%	26.2日
全体	206病床	5,334人/日	6,949床	6,949床	7,664床	77.6%	13.9日

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病床等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	41床
急性期	103床
回復期	38床
慢性期	166床
休棟中・無回答	89床
	437床

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定できないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病床を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 定量基準を適用した現在の病床数は、地域医療構想の必要病床数に対して、急性期・回復期、慢性期の病床が不足している。
- ・ 地域医療構想の必要病床数に対して病床が不足している点や2050年には65歳以上の人口が約40万人と2020年比120%以上の大幅な伸びとなる点からも、急性期・回復期・慢性期病床の確保、在宅医療の推進等により患者需要に対応しうる稼働率向上に向けた対応が必要と考えられる。

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【県央圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	7病床	63人/日	80床	63.8%	3.2日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	8病床	273人/日	321床	84.7%	8.0日	
		急性期	23病床	738人/日	1,009床	73.6%	12.1日	
	回復期リハビリ病床	回復期	11病床	264人/日	524床	70.8%	20.3日	
		回復期	6病床	234人/日	275床	86.6%	71.2日	
	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	2病床	80人/日	91床	88.0%	78.2日	
	医療療養病床	慢性期	14病床	472人/日	588床	82.0%	245.4日	
介護療養病床	慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
	産科の一般病床	急性期	5病床	79人/日	103床	76.3%	4.9日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病床等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	1病床	12人/日	15床	79.3%	4.2日	
		回復期	1病床	0人/日	2床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	1病床	20人/日	36床	56.3%	15.6日	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		慢性期	2病床	30人/日	35床	85.1%	26.1日	
その他	不明	不明/休棟	10病床	97人/日	213床	43.1%	53.6日	
	休棟・休床中	不明/休棟	3病床	0人/日	90床	0.0%	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	336人/日	75.0%	78.9%
急性期	849人/日	78.0%	73.4%
回復期	498人/日	90.0%	76.6%
慢性期	581人/日	92.0%	83.1%
不明	97人/日	—	29.4%
合計	2,361人/日	—	72.2%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病床	86.6%
うち産科・小児科を除く急性期一般病床1・一般病床7:1	77.0%
うち産科・小児科を除くその他の一般病床	64.6%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病床等	-
うち産科・小児科を除く有床診療所	-
うち小児科の一般病床・有床診	-

4機能ごとに集計

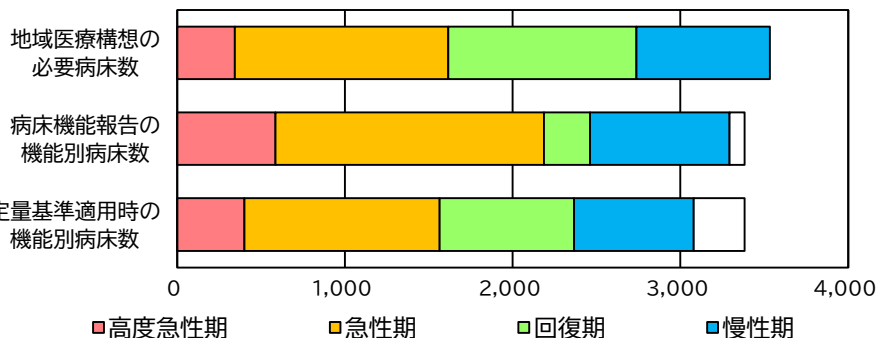
4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	15病床	336人/日	401床	587床	344床	78.9%	6.0日
急性期 計	30病床	849人/日	1,163床	1,599床	1,273床	73.4%	10.4日
回復期 計	18病床	498人/日	801床	275床	1,120床	76.6%	28.9日
慢性期 計	18病床	581人/日	714床	831床	797床	83.1%	131.5日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	13病床	97人/日	303床	90床☆	-	29.4%	53.6日
全体	94病床	2,361人/日	3,382床	3,382床	3,534床	72.2%	15.1日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退棟患者数とが大きい乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病床を除いて算出。

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病床等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	76床
回復期	0床
慢性期	137床
休棟中・無回答	90床
	303床



【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 定量基準を適用した現在の病床数は、地域医療構想の必要病床数に対して、回復期を除き概ね水準に近い値となっている。2050年の65歳以上の人口は約16.2万人と増加することが見込まれる。引き続き、地域の实情に見合った医療体制を構築していくことが望まれる。
- ・ 平均在棟日数は、急性期を除き令和3年度と比較して短縮傾向、病床稼働率は令和3年度と比較して回復期以外は維持傾向となっている。

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【川越比企圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	8病棟	71人/日	109床	55.7%	4.8日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	14病棟	441人/日	596床	76.2%	10.6日	
		急性期	43病棟	1,536人/日	1,670床	75.1%	11.9日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	28病棟	858人/日	1,214床	74.1%	19.7日	
		回復期	11病棟	479人/日	558床	85.8%	74.5日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	7病棟	317人/日	360床	87.5%	51.7日	
	医療療養病床	慢性期	30病棟	1,306人/日	1,457床	92.3%	249.5日	
介護療養病床	慢性期	2病棟	63人/日	71床	11.5%	206.2日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	7病棟	105人/日	180床	58.1%	15.3日	
	産科の一般病床	急性期	12病棟	213人/日	329床	69.0%	6.7日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	3病棟	55人/日	94床	58.9%	6.1日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	2病棟	35人/日	50床	70.4%	27.9日	
その他	不明	不明/休棟	14病棟	190人/日	275床	65.7%	19.1日	
	休棟・休床中	不明/休棟	8病棟	8人/日	120床	0.0%	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	672人/日	75.0%	69.6%
急性期	1,749人/日	78.0%	74.0%
回復期	1,337人/日	90.0%	78.4%
慢性期	1,722人/日	92.0%	86.5%
不明	198人/日	—	44.2%
合計	5,677人/日	—	75.6%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	85.8%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	67.6%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟	69.9%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	83.9%
うち産科・小児科を除く有床診療所	6.5%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

4機能ごとに集計

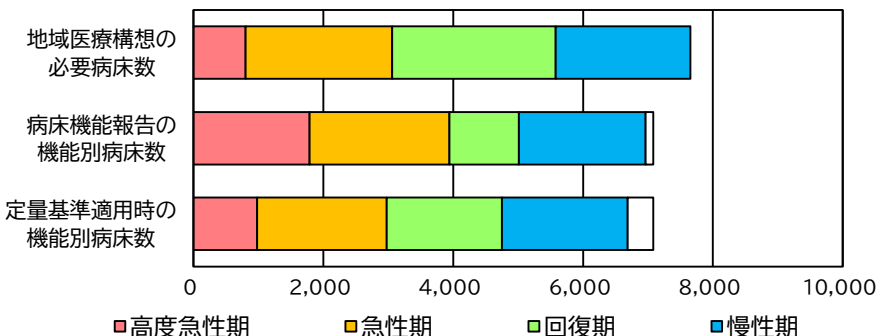
4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	32病棟	672人/日	979床	1,790床	802床	69.6%	9.9日
急性期 計	55病棟	1,749人/日	1,999床	2,151床	2,260床	74.0%	10.6日
回復期 計	39病棟	1,337人/日	1,772床	1,073床	2,518床	78.4%	27.8日
慢性期 計	41病棟	1,722人/日	1,938床	1,949床	2,072床	86.5%	153.5日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	22病棟	198人/日	395床	120床☆	-	44.2%	19.1日
全体	189病棟	5,677人/日	7,083床	7,083床	7,652床	75.6%	17.9日

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	42床
急性期	83床
回復期	109床
慢性期	41床
休床中・無回答	120床
	395床

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定できないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 定量基準を適用した現在の病床数は、地域医療構想の必要病床数に対して、回復期を除き概ね水準に近い値となっている。2050年の65歳以上の人口は約24万人と増加することが見込まれる。引き続き、地域の実情に見合った医療体制を構築していくことが必要ではないか。
- ・ 高度急性期においては令和3年度と比較して、平均在棟日数は短縮、病床稼働率は改善している。

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【西部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	14病床	121人/日	151床	77.6%	4.7日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	15病床	511人/日	583床	81.5%	12.6日	
		急性期	44病床	1,344人/日	1,813床	69.8%	11.6日	
		回復期	27病床	730人/日	1,137床	63.9%	21.6日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	13病床	470人/日	573床	80.7%	69.4日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	7病床	283人/日	395床	71.7%	338.8日	
	医療療養病床	慢性期	25病床	1,485人/日	1,282床	93.6%	205.2日	
介護療養病床	慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	1病床	3人/日	3床	93.8%	8.3日	
	産科の一般病棟	急性期	11病床	202人/日	305床	67.1%	6.3日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	1病床	17人/日	26床	66.1%	14.9日	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	1病床	16人/日	20床	77.8%	20.4日	
その他	不明	不明/休棟	19病床	1,308人/日	749床	56.3%	33.2日	
	休棟・休床中	不明/休棟	7病床	0人/日	149床	0.0%	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	636人/日	75.0%	80.6%
急性期	1,563人/日	78.0%	69.4%
回復期	1,200人/日	90.0%	70.2%
慢性期	1,784人/日	92.0%	87.0%
不明	1,308人/日	—	46.2%
合計	6,491人/日	—	72.5%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	80.7%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	64.8%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟	58.1%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	78.1%
うち産科・小児科を除く有床診療所	3.5%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

4機能ごとに集計

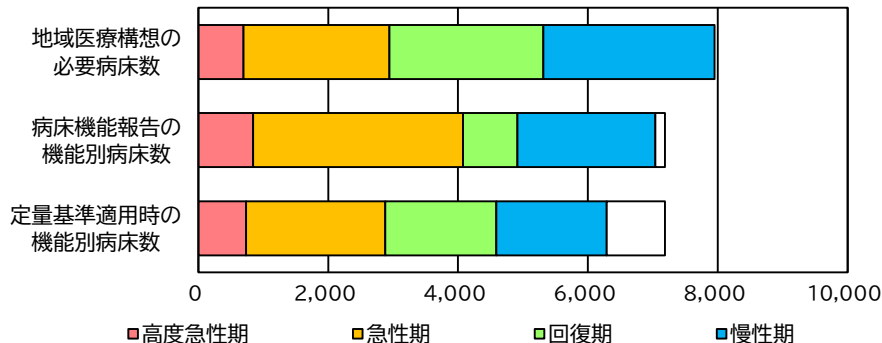
4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	30病床	636人/日	737床	844床	694床	80.6%	9.0日
急性期 計	56病床	1,563人/日	2,144床	3,235床	2,249床	69.4%	10.3日
回復期 計	40病床	1,200人/日	1,710床	836床	2,370床	70.2%	30.8日
慢性期 計	33病床	1,784人/日	1,697床	2,122床	2,638床	87.0%	200.2日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	26病床	1,308人/日	898床	149床☆	-	46.2%	33.2日
全体	185病床	6,491人/日	7,186床	7,186床	7,951床	72.5%	18.8日

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	56床
急性期	248床
回復期	59床
慢性期	386床
休棟中・無回答	149床
	898床

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定できないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 定量基準を適用した現在の病床数は、地域医療構想の必要病床数に対して、高度急性期を除き必要病床数に満たしていない。2050年の65歳以上の人口は約23.5万人と現時点から増加した後、2020年と同水準となることが見込まれる点から、東京都内の医療圏との連携や南西部、川越比企医療圏との連携を図り、人口の波に対応した医療体制を構築していくことが必要ではないか。
- ・ 病床稼働率は令和3年度と比較して大きく変わらないが、地域医療構想の想定病床稼働率は回復期の乖離が大きい。

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【利根圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	11病床	84人/日	123床	57.7%	4.2日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	11病床	423人/日	446床	89.1%	11.2日	
		急性期	21病床	715人/日	1,010床	64.5%	11.4日	
		回復期	21病床	545人/日	864床	59.3%	19.3日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	8病床	293人/日	370床	79.3%	56.6日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	8病床	322人/日	394床	79.1%	64.4日	
	医療療養病床	慢性期	12病床	441人/日	596床	76.7%	172.2日	
介護療養病床	慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
	産科の一般病棟	急性期	4病床	50人/日	108床	48.9%	4.3日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	1病床	0人/日	30床	-	-	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	1病床	5人/日	14床	37.0%	16.0日	
その他	不明	不明/休棟	16病床	114人/日	525床	22.2%	11.5日	
	休棟・休床中	不明/休棟	4病床	0人/日	117床	0.0%	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	507人/日	75.0%	81.6%
急性期	765人/日	78.0%	62.8%
回復期	839人/日	90.0%	66.0%
慢性期	769人/日	92.0%	76.8%
不明	114人/日	-	18.1%
合計	2,993人/日	-	61.1%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	79.3%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	34.4%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟	61.6%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	67.9%
うち産科・小児科を除く有床診療所	24.5%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

4機能ごとに集計

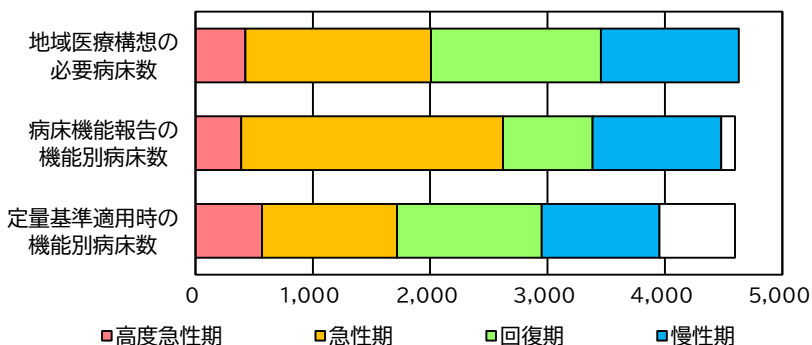
4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	22病床	507人/日	569床	391床	426床	81.6%	8.8日
急性期 計	26病床	765人/日	1,148床	2,229床	1,580床	62.8%	10.1日
回復期 計	29病床	839人/日	1,234床	765床	1,448床	66.0%	26.4日
慢性期 計	21病床	769人/日	1,004床	1,095床	1,176床	76.8%	97.1日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	20病床	114人/日	642床	117床☆	-	18.1%	11.5日
全体	118病床	2,993人/日	4,597床	4,597床	4,630床	61.1%	16.2日

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	452床
回復期	73床
慢性期	0床
休棟中・無回答	117床
	642床

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 定量基準を適用した現在の病床数は、地域医療構想の必要病床数に対して、急性期を除き概ね水準に近い値となっている。2050年の65歳以上の人口は約18.2万人と現時点から減少が見込まれる点から、一時的に病床数が不足する際は在宅推進や医療圏間の連携強化により対応するなど、長期的な地域の状況に合った医療体制を構築していくことが必要ではないか。
- ・ 高度急性期を除き、病床稼働率が地域医療構想の想定を下回っている。

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【北部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	6病棟	51人/日	91床	56.1%	4.7日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	4病棟	119人/日	136床	89.5%	9.1日	
		急性期	27病棟	881人/日	1,135床	78.8%	13.3日	
		回復期	21病棟	530人/日	867床	70.4%	19.7日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	3病棟	147人/日	155床	94.5%	52.8日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	4病棟	110人/日	126床	-	-	
	医療療養病床	慢性期	19病棟	755人/日	913床	87.7%	184.9日	
介護療養病床	慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
	産科の一般病床	急性期	7病棟	135人/日	260床	77.2%	7.1日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	1病棟	12人/日	42床	29.6%	7.2日	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	1病棟	8人/日	14床	59.2%	16.9日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
その他	不明	不明/休棟	3病棟	19人/日	42床	45.2%	20.1日	
	休棟・休床中	不明/休棟	5病棟	0人/日	132床	0.0%	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	170人/日	75.0%	75.9%
急性期	1,037人/日	78.0%	76.8%
回復期	677人/日	90.0%	74.9%
慢性期	865人/日	92.0%	87.7%
不明	19人/日	—	10.9%
合計	2,767人/日	—	75.2%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	94.5%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	26.5%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟	61.6%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	83.0%
うち産科・小児科を除く有床診療所	57.9%
うち小児科の一般病棟・有床診療	-

4機能ごとに集計

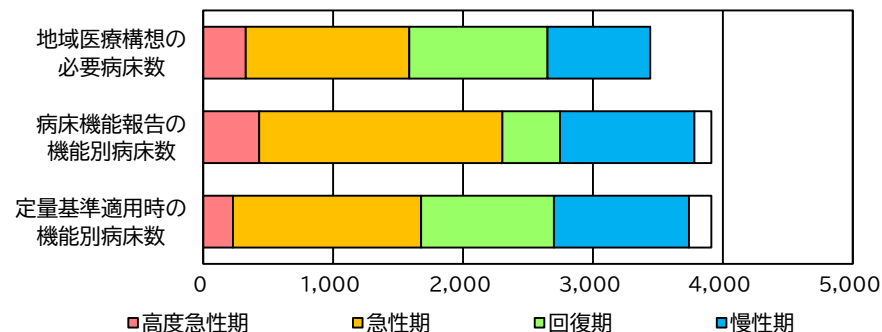
4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	10病棟	170人/日	227床	429床	327床	75.9%	7.1日
急性期 計	36病棟	1,037人/日	1,451床	1,873床	1,258床	76.8%	12.2日
回復期 計	24病棟	677人/日	1,022床	445床	1,066床	74.9%	23.1日
慢性期 計	23病棟	865人/日	1,039床	1,034床	791床	87.7%	184.9日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	8病棟	19人/日	174床	132床☆	-	10.9%	20.1日
全体	101病棟	2,767人/日	3,913床	3,913床	3,442床	75.2%	17.8日

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	19床
急性期	19床
回復期	4床
慢性期	0床
休床中・無回答	132床
	174床

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定できないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 定量基準を適用した現在の病床数は、地域医療構想の必要病床数に対して、慢性期病床は過剰気味であるが、高度急性期を除き概ね水準に近い値となっている。2050年の65歳以上の人口は約14.5万人と現時点から増加した後、減少が見込まれる点から、高度急性期の医療体制は医療圏内で病床を確保するのではなく、交通の便を活かし近隣の利根、県央医療圏と連携して構築していくことが必要ではないか。
- ・ 慢性期を除き、病床稼働率が令和3年度の結果を上回っている。

令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【秩父圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		急性期	4病棟	100人/日	167床	62.1%	13.8日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	4病棟	75人/日	172床	56.7%	19.2日	
		慢性期	1病棟	37人/日	40床	93.6%	88.7日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	1病棟	53人/日	60床	88.0%	53.9日	
	医療療養病床	慢性期	5病棟	130人/日	225床	50.3%	90.6日	
介護療養病床	慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
	産科の一般病床	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
その他	不明	不明/休棟	4病棟	48人/日	112床	47.2%	14.8日	
	休棟・休床中	不明/休棟	0病棟	0人/日	0床	-	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	0人/日	75.0%	-
急性期	100人/日	78.0%	62.1%
回復期	112人/日	90.0%	65.3%
慢性期	183人/日	92.0%	59.5%
不明	48人/日	-	47.2%
合計	443人/日	-	59.8%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	93.6%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	-
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟	53.2%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	58.5%
うち産科・小児科を除く有床診療所	-
うち小児科の一般病棟・有床診	-

4機能ごとに集計

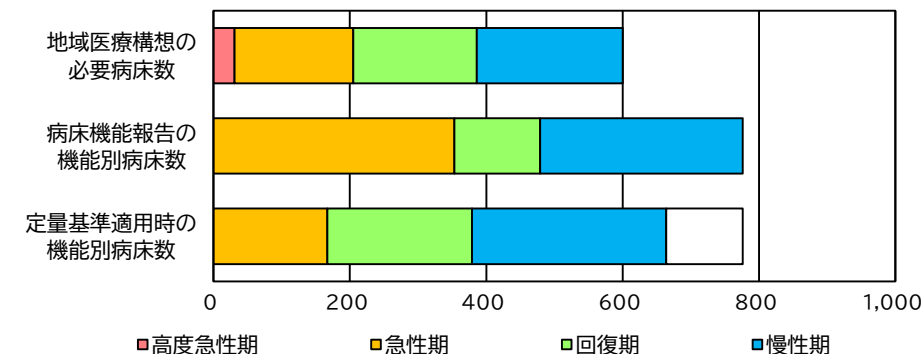
4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	0病棟	0人/日	0床	0床	31床	-	-
急性期 計	4病棟	100人/日	167床	353床	174床	62.1%	13.8日
回復期 計	5病棟	112人/日	212床	126床	181床	65.3%	26.0日
慢性期 計	6病棟	183人/日	285床	297床	214床	59.5%	72.7日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	4病棟	48人/日	112床	0床☆	-	47.2%	14.8日
全体	19病棟	443人/日	776床	776床	600床	59.8%	24.2日

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	100床
回復期	0床
慢性期	12床
休床中・無回答	0床
合計	112床

※「機能区分不明」とは、入院料の届出なし・不明、様式2不提出等により判定できないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

・定量基準を適用した現在の病床数は、地域医療構想の必要病床数に対して、高度急性期を除き概ね水準に近い値となっている。2050年の65歳以上の人口は約2.4万人と現時点から減少が見込まれる点から、現在過剰気味である回復期・慢性期病床の扱いについて広く協議し、長期的な地域の状況に合った医療体制を構築していくことが必要ではないか。

各圏域の定量基準による機能別病床稼働率（令和4年度報告）

4機能区分	4機能区分まとめ					合計
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	不明	
埼玉県全体	74.6%	73.7%	75.3%	84.7%	31.7%	73.4%
南部	65.2%	75.2%	74.5%	74.2%	45.2%	73.0%
南西部	77.8%	77.5%	79.2%	90.8%	47.9%	79.9%
東部	68.2%	71.5%	75.3%	81.6%	24.7%	71.8%
さいたま	78.3%	78.3%	81.7%	88.2%	33.2%	77.6%
県央	78.9%	73.4%	76.6%	83.1%	29.4%	72.2%
川越比企	69.6%	74.0%	78.4%	86.5%	44.2%	75.6%
西部	80.6%	69.4%	70.2%	87.0%	41.6%	72.3%
利根	81.6%	62.8%	68.3%	76.8%	18.1%	61.7%
北部	75.9%	76.8%	75.1%	94.0%	10.9%	76.3%
秩父	-	62.1%	65.3%	59.5%	47.2%	59.8%

各圏域の定量基準による機能別平均在棟日数（令和4年度報告）

	4機能区分まとめ					合計
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	不明	
4機能区分						
埼玉県全体	8.0日	10.4日	26.2日	144.2日	16.7日	15.9日
南部	7.2日	9.8日	24.4日	116.7日	6.0日	12.8日
南西部	6.7日	9.6日	21.7日	146.1日	8.2日	15.3日
東部	9.4日	10.1日	26.8日	123.8日	14.0日	15.8日
さいたま	7.3日	10.8日	28.5日	172.1日	26.2日	13.9日
県央	6.0日	10.4日	28.9日	131.5日	53.6日	15.1日
川越比企	9.9日	10.6日	27.8日	153.5日	19.1日	17.9日
西部	9.0日	10.3日	30.8日	200.2日	27.6日	18.6日
利根	8.8日	10.1日	26.4日	97.1日	11.5日	16.2日
北部	7.1日	12.2日	23.1日	184.9日	20.1日	17.8日
秩父	-	13.8日	26.0日	72.7日	14.8日	24.2日